



▼闇を照らす光▼

校長 小田 恵

ご降誕おめでとうございます。

いろいろなことがあった2022年もあと一週間あまり。コロナ感染もなかなか収束しない状況ではありますが、それでもご降誕祭(クリスマス)を無事迎え、共に祝えることに感謝します。

救世主イエス・キリストの誕生は、闇に住む民にとっての光でした。クリスマスブローでの朗読や舞台で、そのことはわかりやすく伝えられています。

現代を生きる私たちも、程度の差はあるでしょうか、「闇」を抱えています。いつか救い主が現れ、助けてくれるはず、と待っているだけでは何も変わりません。

私の好きな言葉に、「暗いと不平を言わずにすすんであかりをつけましょう」(「心のともしび」運動のモットー)があります。同じ内容を表すものとして、合同朝礼でお話した、教皇フランシスコの言葉があります。教皇は10月12日にバチカン、サン・ピエトロ広場での一般謁見講話で「今の状況に対して何もしようともせず、不平ばかり言うのでは毒にしかならない。不平をいうことは、魂にも毒で、いのちにとっても毒になる上に、誰かが前へ進もうとする望みをはぐくんだり強めたりするのを妨げるのなら、ほとんど罪になる」という内容を話されました。教皇のこの言葉は非常に厳しいものですが、今、特に重く受けとめなければならないメッセージです。

生徒の皆さんをお預かりし、学校を運営する立場として、このメッセージを常に心に留め、生徒もそして教職員も、社会のいきいきとした力になって活躍することができるよう尽力していきたいと思えます。

コロナ禍のために休止していた国際交流プログラムも、状況を見ながら再開すべく動いています。まずは、カナダのヴィアートル修道会表敬訪問を来夏実施したいと考えています。他の語学研修プログラムなどは、主に費用面での調整を行っている段階です。

随時情報を公開してまいります。

来たる2023年が、良い年となりますように。また、洛星で学ぶ生徒たちが、世を照らす光となるように、心からお祈りしています。

南出貴志事務局長より



11月9日に事務局長として就任しました南出貴志と申します。

今年の5月に発覚した事件を受けて、洛星中学・高等学校の信頼を回復し、より良い学校にしていくことを期待されて就任した次第です。生徒の皆さんもいろいろ心配になられたかもしれませんが、安心してください。これからどんどん業務改善を行い、いち早く信頼を回復することはもちろん、“洛星”を京都で、いや日本で、一番の学校にしていくことを目標として、事務局長としての職責を果たしていく所存です。

とはいえ、一人の力では日本で一番の学校にしていくことは到底できません。教職員はもとより、洛星の主役である生徒の皆さん一人ひとりが、洛星の一員であること自信と誇りを持ち、常に堂々と、日本で一番の学校にふさわしい振る舞いをしていかなければなりません。もちろん私も、事務局長として、一卒業生として、洛星の一員として謙虚に、しかしながら誇りをもって仕事をしていくつもりであります。生徒の皆さんが、勉強に、部活動に打

ち込み、いずれにおいても日本一の学校にふさわしい成績を収められる環境づくりに貢献してまいりますので、これからどうぞよろしくお願いいたします。

私は 36 期卒業生です。先輩として一言皆さんにお願いがあります。

それは、“あいさつ”と“身だしなみ”をまずはちゃんとしよう！ということです。

久しぶりに母校に戻ってきて感じたことは、きちんとあいさつできる生徒が少ないことと、身だしなみが乱れている生徒が多いこと。とても残念に思いました。

どんなに勉強ができて、どんなに成績が良くても、どんなに部活動を頑張っても、あいさつと身だしなみは基本です。これは皆さんが大人になり、社会に出たとしてもまったく同じことが言えます。“あいさつ”と“身だしなみ”が大事なことは、頭では理解されていると思います。しかしながら、はっきり言って皆さんの“あいさつ”はなっていません。

自分から、明るく元気よく、きちんと相手の目を見てあいさつ出来ていますか？

廊下ですれ違っても、恥ずかしがっているのか目を伏せ、こちらからあいさつしなければ素通りしている生徒が多く見受けられます。恥ずかしがって、きちんとあいさつできないことを恥ずかしいことと思うようにしてください。

“身だしなみ”については、制服の着こなしです。寒いのは分かりますが、ポケットに手を入れて歩き、第一、第二ボタンを外している生徒を見かけますが、格好いいと勘違いしているのでしょうか。先輩として、とても恥ずかしい気持ちになりますし、日本一の学校に、洛星に、ふさわしい姿ではありません。

今度見かけたら、こういうところから先輩として、事務局長として、注意・指導していきたいと考えております。

洛星の、“勉強も出来て、部活動も盛ん。他人に優しく自分に厳しい”という良き伝統を受け継いでいくことを切に願っております。自由闊達な校風も、各自の「規律を守る」気持ちが土台になれば、ただのわがまま放題ということになります。高 3 生は高 2 生の、高 2 生は高 1 生の、高校生は中学生の…と、上級生は下級生のお手本となり、まずはきちんと“あいさつ”できる、“身だしなみ”を整えることから意識して取り組んでいきましょう。

中高 6 年間で、洛星という日本一の学校で仲間と共に過ごすことで、将来、社会で大いに活躍できる人材となるように、その礎を築いていかれることを願っております。